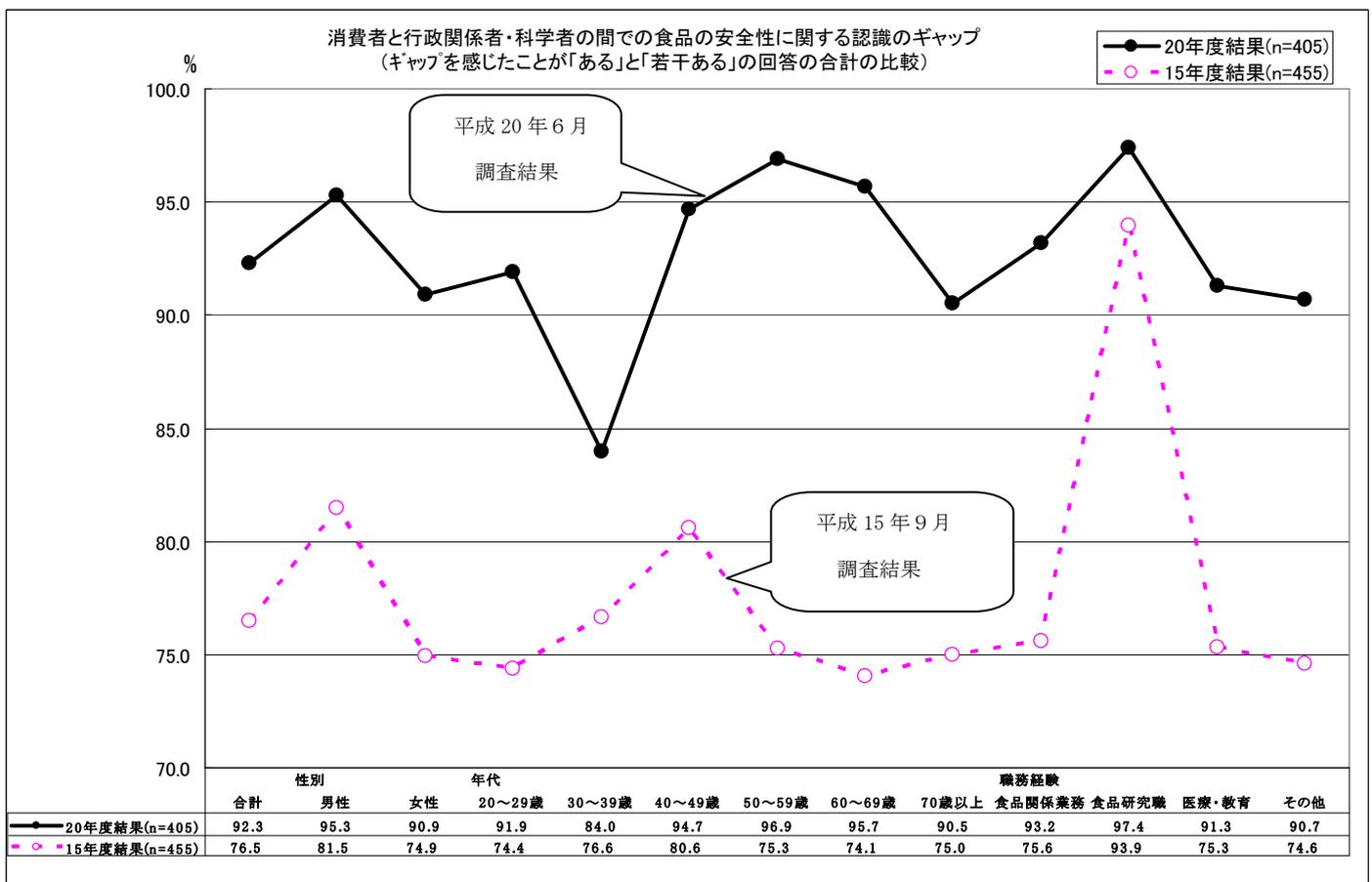


食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する認識のギャップ等について」調査票

1 消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップについて

平成20年度第1回食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する意識等について（6月実施）」（以下「平成20年度第1回調査」という。）において、「食品の安全性に関して、消費者と行政関係者・科学者との間での認識のギャップをどの程度感じたことがあるか」について、皆様にお伺いしました。

同様の調査を平成15年度にも行いましたが、平成20年度第1回調査において、ギャップを感じたことが「ある」又は「若干ある」と回答された方の割合が、下図のように増加しました。



(1) 消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップを感じたことがあるとする回答割合が増加している理由等について

問1 平成20年度第1回調査において、「食品の安全性に関して、消費者と行政関係者・科学者との間での認識のギャップを感じたことがある」という回答割合が、5年前と比べて増えたのは、どのような理由からだと思いますか。

次に掲げるもののうちから、あてはまると思う理由を影響の大きい順に3つ選んでください。

- ① 行政関係者・科学者が発信する情報が、消費者が求めている情報と異なっているから
- ② 食品の安全性について、行政関係者・科学者から消費者への情報の提供が遅くなっているから
- ③ 食品の安全性について、行政関係者・科学者から消費者に対してわかりやすい説明がなされなくなったから
- ④ 消費者が食品の安全性を理解するにあたり、科学的な知識等が必要となったから
- ⑤ 食品の安全に関して、行政関係者の対応に、不適切な事案が増えたため
- ⑥ 食品の安全に関する事故や事件が増え、消費者が行政関係者・科学者の対応や発言に接する機会が増えたため
- ⑦ その他（自由記述）
- ⑧ わからない

問2 平成20年度第1回調査を実施した6月の時点で、「食品の安全性に関して、消費者と行政関係者・科学者との間での認識のギャップを感じたことがある」という回答割合が、5年前と比べて増えたことには、どのような要因がどの程度関係していると思いますか。

以下の10個の要因それぞれについて、「消費者と行政関係者・科学者との間での認識のギャップを感じたことがある」ことへの関係度合を、次に掲げるもののうちから1つずつ選んでください。

また、以下の10個の要因以外に関係していると思うものがあれば、併せて「11 その他」に具体的な要因名を御記入ください。

【要因】

- 1 遺伝子組換え食品
- 2 いわゆる健康食品
- 3 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）
- 4 家畜用抗生物質
- 5 食品添加物
- 6 農薬
- 7 BSE（牛海綿状脳症）
- 8 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒等）
- 9 体細胞クローン家畜由来食品
- 10 器具・容器包装からの溶出化学物質
- 11 その他（自由記述）

【関係度合】

- ① 大いに関係している
- ② ある程度関係している
- ③ あまり関係していない
- ④ 全く関係していない
- ⑤ わからない

※ 「いわゆる健康食品」とは、「保健機能食品」（注）以外のもので、広く、健康の保持増進に資する食品として販売・利用されるものです。
（注）厚生労働省の保健機能食品制度の下で一定の条件を満たすものとして販売を認めているもの

問3 問2において、あなたが「① 大いに関係している」又は「② ある程度関係している」を選択した要因（「11 その他」を含む）それぞれについて、その理由を、次に掲げるもののうちから1つずつ選んでください。

【要因】

- 1 遺伝子組換え食品
- 2 いわゆる健康食品
- 3 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）
- 4 家畜用抗生物質
- 5 食品添加物
- 6 農薬
- 7 BSE（牛海綿状脳症）
- 8 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒等）
- 9 体細胞クローン家畜由来食品
- 10 器具・容器包装からの溶出化学物質
- 11 その他（自由記述）

【理由】

- ① 行政関係者・科学者が発信する情報が、消費者が求めている情報と異なっているから
- ② 行政関係者・科学者から消費者への情報の提供が遅くなっているから
- ③ 行政関係者・科学者から消費者に対してわかりやすい説明がなされなくなったから
- ④ 消費者に科学的な知識が必要となったから
- ⑤ 行政関係者の対応に、不適切な事案が増えたため
- ⑥ 食品の安全に関する事故や事件が増え、消費者が行政関係者・科学者の対応や発言に接する機会が増えたため
- ⑦ その他（自由記述）
- ⑧ わからない

問4 食品の安全性に関して、どのような場面で、消費者と行政関係者・科学者との間での認識のギャップを感じますか。

以下の場面それぞれについて、消費者と行政関係者・科学者との間での認識のギャップを感じる度合を、次に掲げるものの中から1つずつ選んでください。

また、以下の1～3及び5～7の場面以外の場面があれば、併せて「4 その他」、「8 その他」に具体的な場면을記入し、認識のギャップを感じる度合についても同様に1つ選んでください。

【行政関係者にギャップを感じる場面】

- 1 行政関係者から発信される文書、情報を読む時
- 2 行政関係者から説明を聞く時
- 3 食品の安全に関する事故・事件の行政関係者の対応を見聞きする時
- 4 その他（自由記述）

【認識のギャップを感じる度合】

- ① 大いに感じる
- ② ある程度感じる
- ③ あまり感じない
- ④ 全く感じない
- ⑤ わからない

【科学者にギャップを感じる場面】

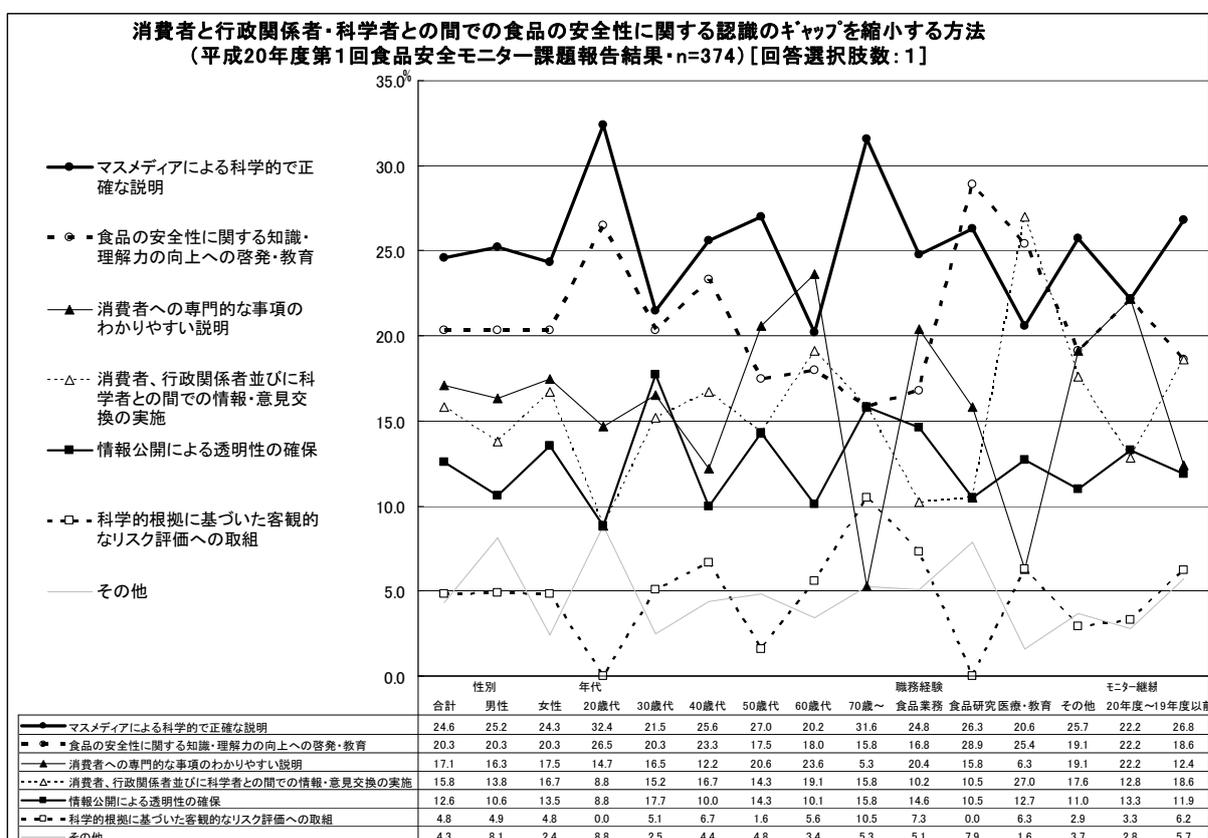
- 5 科学者から発信される文書、情報を読む時
- 6 科学者から食品に関する講演等を聞く時
- 7 食品の安全に関する事故・事件に関する科学者からのコメントを見聞きする時
- 8 その他（自由記述）

(2) 消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップを縮小するための効果的な方法について

平成20年度第1回調査において、「食品の安全性に関して、消費者と行政関係者・科学者との間での認識のギャップを感じたことがある」と回答された方に、このギャップを縮小する方法について伺いました。

その結果は下図の通りで、回答が多かったのは①「マスメディアによる科学的で正確な説明」、②「食品の安全性に関する知識・理解力の向上への啓発・教育」、③「消費者への専門的な事項のわかりやすい説明」、④「消費者、行政関係者並びに科学者との間での情報・意見交換の実施」、⑤「情報公開による透明性の確保」、⑥「科学的根拠に基づいた客観的なリスク評価への取組」の順でした。

ここでは、消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップを縮小する方法として回答の多かった上位4つの内容について伺います。



問5 消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップを縮小するために、「マスメディアによる科学的で正確な説明」という観点で、課題は何だと思えますか。

次に掲げるもののうちから、順に3つ以内選んでください。

- ① 食品の安全性についての解説が少ないこと
- ② 食品安全に関する有益な情報の取扱いが少ないこと
- ③ 食品の効能のみ取り扱う番組が多いこと
- ④ 特定の数字・データのみクローズアップしていること
- ⑤ 消費者の視点に立っていないこと
- ⑥ 食品の安全に関する事故・事件に対する発生時のみの報道が主で、継続的報道がほとんどなされていないこと
- ⑦ その他（自由記述）

問6 食品安全委員会では、テレビ局や新聞社の記者などを対象に意見交換の実施や、関連する報道で不正確なものがある場合に、訂正等を求めるなど、マスメディアとの連携を深めるよう努力しております。

今後、マスメディアに対し、食品安全委員会が、さらに力を入れて取組んだ方が良いのは、どんな手法だと思えますか。

次に掲げるもののうちから、順に3つ以内選んでください。

- ① マスメディアに対する詳細でわかりやすい情報の提供
- ② 不正確な報道内容への訂正等の個別要請
- ③ マスメディアとの意見や情報の交換
- ④ 食品の安全性についてのテレビ番組作成の提案
- ⑤ 新聞などへの意見投稿等を通じた啓発活動
- ⑥ その他（自由記述）

問7 消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップを縮小するために、「食品の安全性に関する知識・理解力の向上への啓発・教育」という観点で、どのような方法が効果的だと思いますか。

まず、効果的だと思う「対象」を順に5つ以内選び、次にあなたが選んだ「対象」それぞれについて、効果的だと思う「場面・手段」を順に3つ以内選んでください。

【対象】

- ① 家庭
- ② 学校
- ③ 保健所などの地方自治体の機関
- ④ 国の機関
- ⑤ 研究機関・研究者
- ⑥ スーパー等の販売業や流通業界団体
- ⑦ メーカーやメーカー業界団体
- ⑧ 外食関連の企業や外食産業団体
- ⑨ NGOやNPOなどの団体
- ⑩ 消費者団体
- ⑪ マスメディア
- ⑫ その他（自由記述）
- ⑬ わからない

【場面・手段】

- ① 食事・給食
- ② 授業、講義
- ③ パンフレット等の印刷媒体
- ④ ホームページ
- ⑤ ビデオ、DVD等の映像媒体
- ⑥ 食料品店、スーパー、飲食店等の店頭・店内
- ⑦ イベント
- ⑧ その他(自由記述)
- ⑨ わからない

問8 消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップを縮小するために、「消費者への専門的な事項のわかりやすい説明」という観点で、食品安全委員会が、さらに力を入れて取組んだ方が良いのは、どんな手段だと思いますか。

次に掲げるもののうちから、順に3つ以内選んでください。

- ① リーフレットやパンフレット
- ② ビデオ、DVD等の映像媒体
- ③ 季刊誌
- ④ 食品の安全性に関する用語集
- ⑤ ホームページ
- ⑥ メールマガジン
- ⑦ 意見交換会
- ⑧ 講演会
- ⑨ イベントへの出展
- ⑩ その他（具体的に御記入ください）

問12 問9で「② ない」をお選びになった方も含めた食品安全モニター全員の方にお尋ねします。

消費者と行政関係者・科学者との間での食品の安全性に関する認識のギャップを縮小するために、食品の安全性についての意見交換会は、どのように改善すべきだと思いますか。

次に掲げるもののうちから、順に5つ以内選んでください。

意見交換会に参加したことの無い方も、改善した方が良くと思うことについてお答えください。

- ① 開催をより広く周知するために、告知方法の改善を行う
- ② 土曜日、日曜日に開催する
- ③ 平日の夜に開催する
- ④ 託児所を設ける
- ⑤ 開催規模を縮小する
- ⑥ 開催規模を拡大する
- ⑦ 開催場所を多くする
- ⑧ 意見交換会だけでなく他のイベントも同時開催する、または他のイベントの一部として意見交換会を開催する
- ⑨ 司会進行・コーディネーターは、行政機関以外の第三者が行う
- ⑩ より魅力的な講演者等を選定する
- ⑪ 講演内容をよりわかりやすくする
- ⑫ 講演内容・資料を事前に公開する
- ⑬ 講演時間を短くする
- ⑭ 講演時間を長くする
- ⑮ 「会場との意見交換」の時間を短くする
- ⑯ 「会場との意見交換」の時間を長くする
- ⑰ 参加者同士のグループ・ディスカッションの時間を設ける
- ⑱ その他（具体的に御記入ください）
- ⑲ 改善点はない

問13 平成19年度以前からの食品安全モニターの方にお尋ねします。

食品安全委員会が行う広報活動（ホームページ、メールマガジン、パンフレット等）は、初めてモニターを依頼された時と比べてどのように思いますか。

次に掲げるもののうちから、1つ選んでください。

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| ① 大変良くなった | ② 良くなった | ③ 変わらない |
| ④ 悪くなった | ⑤ 大変悪くなった | ⑥ わからない |

2 食品安全モニターの活動内容「食品安全委員会が行う食品の安全性に関する情報提供への協力」について

平成20年6月、食品安全モニターの皆様へ、食品安全委員会発行の冊子『どうやって守るの？食べ物の安全性』を3冊ずつお送りしました。その際、初めての試みとして、美容室や医院の待合室など多くの方が集まり、冊子に目を通す機会や時間がある場所への冊子の設置についてご協力をお願い致しました。

また冊子についてのアンケート調査用紙も同封し、243名の方からご回答頂き、その結果を9月末に皆様にお送りしました。

冊子に同封したアンケートの内容と一部重複しますが、食品安全モニターの方全員に、冊子『どうやって守るの？食べ物の安全性』等についてお伺いします。

問14 あなたは、冊子『どうやって守るの？食べ物の安全性』をどのように活用しましたか。

次に掲げるもののうちから、あてはまるものを全て選んでください。

- ① 自分では読んだが、②以降のことはしなかった

【配布】

- ② 家族に配布した
- ③ 友人・知人に配布した
- ④ 職場で配布した
- ⑤ 子どもの学校の関係者に配布した
- ⑥ 地域の人々に配布した
- ⑦ 職場以外の所属団体に配布した
- ⑧ その他（具体的に御記入ください）

【設置】

- ⑨ 職場に設置した
- ⑩ 職場以外の所属団体に設置した
- ⑪ 美容院、理髪店に設置した
- ⑫ 診療所、病院等の待合室等に設置した
- ⑬ 調剤薬局の待合室等に設置した
- ⑭ 地域の集会所に設置した
- ⑮ 飲食店、食料品店、スーパー等に設置した
- ⑯ 公共の施設（図書館、学校等）に設置した
- ⑰ その他（具体的に御記入ください）

【配布・設置以外】

- ⑱ その他（具体的に御記入ください）
例：子どもの友だちに読み聞かせた

問15 冊子『どうやって守るの？食べ物の安全性』は、一人3冊ずつお送りしましたが、冊数はいかがでしたか。

次に掲げるもののうちから、1つ選んでください。

- ① 丁度良かった
- ② 1冊で良かった
- ③ 2冊で良かった
- ④ 4～5冊欲しかった
- ⑤ 6～10冊欲しかった
- ⑥ 10冊以上欲しかった

問16 現在、食品安全委員会では食品安全モニターの皆様に、季刊誌『食品安全』、パンフレット、リーフレット等を一人1部ずつ送付しております。地域等での食品安全に関する情報提供を行うにあたり、これらの資料について、どれくらいの部数を希望しますか。

季刊誌『食品安全』とパンフレット、リーフレット関連に分けて、ご希望の部数を御記入ください。

問17 食品安全委員会から食品安全モニターの皆様に、資料の送付やメールマガジンの配信等を通じて、様々な情報提供をさせて頂いております。これらの情報について、あなたは地域等で、身近な方々等への情報提供をなさっていますか。

次に掲げるもののうちから、あてはまる情報提供先等を全て選んでください。

<参考：主な情報提供>

- 1 季刊誌『食品安全』
- 2 パンフレット『食品安全委員会2008』
- 3 リーフレット『科学の目で守る食品の安全』
- 4 子ども向けリーフレット『科学の目で食品の安全を守ろう』
- 5 冊子『どうやって守るの？食べ物の安全性』

- ① 情報提供は特にしていない
- ② 家族に情報提供している
- ③ 友人・知人に情報提供している
- ④ 職場で情報提供している
- ⑤ 子どもの学校の関係者に情報提供している
- ⑥ 地域の人々に情報提供している
- ⑦ 飲食店、食料品店、スーパー等に情報提供している
- ⑧ 職場以外の所属団体に情報提供している
- ⑨ 授業や講義で、情報提供している
- ⑩ インターネット等で発信している
- ⑪ その他（具体的に御記入ください）

問18 あなたは、今後、地域等での身近な方々等への食品安全に関する情報提供等を積極的に行いたいと思いますか。

次に掲げるもののうちから、1つ選んでください。

- ① 是非行いたい
- ② 機会があれば、行いたい
- ③ あまり行いたくない
- ④ 行いたくない

問19 食品安全モニターの方が地域等で食品安全に関する情報提供を行うにあたり、これまで送付している発行物の提供（問17<参考：主な情報提供>参照）以外で、食品安全委員会からどのような支援を希望しますか。

次に掲げるもののうちから、あてはまると思う支援を全て選んでください。

- ① 食品安全委員会以外の関係行政機関の情報提供
- ② 意見交換会等で使用している電子媒体資料（パワーポイント等の電子データ）
- ③ 自らの活動内容を発信・発表する場（活動報告会、活動報告書等）
- ④ 第三者を対象に話や講演をする場
- ⑤ 見学をする機会（食品製造工場、と畜場等）
- ⑥ その他(具体的に記入してください)

問20 食品安全モニターの方が地域等で食品安全に関する情報提供を行うにあたり、その他ご意見、ご要望があれば、御記入ください。

以上、御協力ありがとうございました。